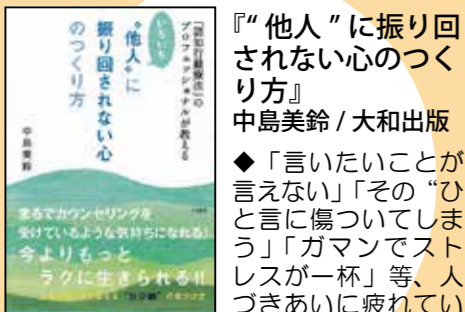


図・書・紹・介

・当センター「図書コーナー」にある本を紹介しています。  
 【貸出しのお約束】・1人5冊まで ・期限：2週間 ・利用時間：9時～17時  
 ※時間外の返却はセンター入口横のポストをご利用ください。



『“他人”に振り回されない心のつくり方』  
 中島美鈴 / 大和出版  
 ◆「言いたいことが言えない」「その“ひと”に傷ついてしまう」「ガマンでストレスが一杯」等、人づきあいに疲れているあなたへ。注目の若き専門家が「認知行動療法」によって今よりもっとラクに生きられる方法を明かします！



『ボクの彼はどこにいる？』  
 石川大我 / 講談社文庫



『キレる私をやめたい』  
 田房永子 / 竹書房

◆「アイドルの女の子を好きなふりをしたり、気になる男子の名を寝言で呼んだらどうしよう」と修学旅行で眠れなかったり——著者がゲイであることに悩み、周りにカミングアウトしていく青春記。



◆どうしてもキレてしまう自分が嫌で嫌でたまらない。カウンセリングや心療内科受診でも収まらない感情が、ゲシュタルト療法に出会ったことで少しずつ改善していく。

図書コーナーをご利用ください

●男女共同参画に関する書籍のほか、話題を呼んだ一般書籍も多く取り揃えております (ex.「コンビニ人間」村田沙耶香)。ぜひお立ち寄りください！

ひとりで悩まないで…  
 気軽に相談を…



女性専用電話相談です。  
 相談は無料で秘密は厳守します。

とらいあんぐるん相談室

電話 027-224-5210

●相談日と時間

	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
13:00～16:00	○	○	○	○	-	-

・年末年始(12/29～1/3)、祝日、月曜日は休み ・月曜日が祝日の場合、火曜日も休み

【相談内容】家庭の問題の他、女性の自立や能力の発揮、性差に関する悩みなど…

センターのご案内



●お車で越しの際は、県庁内「県民駐車場」をご利用ください。(2時間まで無料)

- 開館時間：火～金 9:00～21:00  
土・日・祝 9:00～17:00
- 休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)  
12月29日～1月3日

〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12  
 電話 027-224-2211 FAX 027-224-2214  
 メール sankakuse@pref.gunma.lg.jp

●研修室の貸出しを行っています。

詳しくはホームページをご覧になるか、直接お問い合わせください。



●大研修室(半日：3,600円) ●小研修室(半日：820円)



●中研修室(半日：1,640円) ●交流コーナー

●編●集●後●記●

皆さん「だれでもトイレ」をご存知ですか？  
 これは、車いすの人などのために設置される多目的トイレとは違い、文字通り「どなたでも」利用ができるトイレです。センターの1階にあります。センターには無料の交流コーナーや図書コーナーもあります。ぜひ一度、お立ち寄りください。(み)



とらいあんぐるん

ぐんま男女共同参画センター通信

2016年12月 No.43



ぐんま男女共同参画センター  
 〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12  
 TEL: 027-224-2211  
 FAX: 027-224-2214  
 メール: sankakuse@pref.gunma.lg.jp

～男女共同参画社会の実現を目指し活躍する人たち～

企画 インタビューコーナー 第18回  
 朝日新聞社 前橋総局長 岡本峰子さんに聞く



ちなみに私の一番は、毎朝自宅の窓から美しい山並みがみられること！(かつて山ガールでした)

■新聞社の仕事って？

皆さんが抱く新聞社の仕事のイメージってどのようなものでしょう？休む間も寝る間もなく、走り続けているハードな男性向きの仕事？。もちろんそういう職場もあります。私もそんな職場でがむしゃらに働いた時期があります。けれど実際には、多種多様な仕事を内包し、多様な価値観を持つ人が必要とされる職場です。

■群馬の魅力について

今年5月に東京本社から前橋に赴任しました。群馬に来て感じたのは「暮らしやすい」という事です。

民間調査会社が行う都道府県別の魅力度ランキングで群馬は毎年のように最下位グループです。これは、群馬に魅力がないのではなく、外にアピールする必要がないくらい県民が満たされているからだと思うのです。自然環境が豊か、美味しい食材が手軽に手に入る、物価が安い、人が温かい、待機児童ほぼゼロ等、群馬は「いいところ」だらけです。なのに、地元の皆さんは自信なさげ。これだけ「住みやすい」のですからもっと胸を張っていいと思います。

そもそも、定時退社できる職場だから女性向きという考えは当てはまりません。女性だけが家庭のために仕事をセーブするのはおかしくないですか？ そんな問題意識を社会に提言する役割を担うのが報道機関ですから、男性記者もイクメン意識の高い人は多いです。

■どのように生きていきたいですか？

東京本社人事部で3年間、採用担当を務めました。男女問わず伝えてきたことは、「自分にとって何が大切か」をはっきりさせることです。やりがい？住む土地？プライベート？

それを見つけるために、とことん悩んでほしいと思います。長い人生です。自分は

何に心躍り、ときめくのか。それを言語化することで、きっと優先順位がつかずです。

私は毎日が新しい体験に満ちた生活であることや、古い慣習や性別に縛られずに自由に行動できることが大事だと考え、いまの仕事を選びました。いまま単身赴任生活ですが、新たな土地と体験を楽しんでいます。

■全ての人暮らしやすい社会

近年、働きながらも充実した生活を送ることができ、子育てや介護のために離職しなくてもよい社会づくりの必要性が強調されています。弊社でも、短時間勤務や在宅勤務、介護・育児休業、自己研鑽にあてられる「自己充実休暇」などの制度が整えられています。でもいくら制度があっても、使えなければ意味がない。

その点で、育休を取得した男性記者の言葉が印象的でした。「空気を読むけど、最終的には読まないことが大切」なのだそう。職場に気配りはするけれど、強い意志をもつ。仲間たちも、多様な考え方、人生の価値観を受け入れる。そんな職場や社会は、育児や介護の問題だけでなく、海外出身者や障害者、LGBTの人たちにとっても生きやすい場所じゃないですか？



インタビューコーナーでは、「男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな立場で活躍している人」を紹介します。

朝日新聞社  
 社員数 4,597人  
 (男性: 3,785人 女性: 812人)  
 2015.4.1 データ  
 ●国内 44 総局中女性総局長は現在 4人